

「ベテスダの池での癒し(1)」

§ 049 ヨハ5:1~18

1. はじめに

(1) 前回は、断食論争について学んだ。

- ①口伝律法の本質
- ②イエスの口伝律法に対する態度

(2) 今回は、安息日論争が主要テーマである。

- ① § 49~51 まで、安息日論争が続く。
- ②エルサレムとガリラヤにおいて、パリサイ人たちはイエスに論争を挑む。

(3) A. T. ロバートソンの調和表

イエスは、安息日に病人を癒し、パリサイ人たちに対して自らの行動を弁護する。

(§ 49)

ヨハ5:1~47 (今回は、5:1~18を取り上げる)

2. 安息日について

(1) 出20:8~11

「安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。六日間、働いて、あなたのすべての仕事をしなければならない。しかし七日目は、あなたの神、【主】の安息である。あなたはどんな仕事もしてはならない。——あなたも、あなたの息子、娘、それにあなたの男奴隷や女奴隷、家畜、また、あなたの町囲みの中にいる在留異国人も——それは【主】が六日のうちに、天と地と海、またそれらの中にあるすべてのものを造り、七日目に休まれたからである。それゆえ、【主】は安息日を祝福し、これを聖なるものと宣言された」

- ①安息日は、休息の日である。
- ②安息日は、【主】に感謝する日である。
- ③安息日は、自由の民となったことを記念する日である。

(2) 口伝律法による安息日の理解

- ①イエス時代になると、安息日の規定が1500以上も存在するようになった。
- ②ソフリム学派の教え

「神は、なぜイスラエルを創造したのか」

「それは、イスラエルに安息日を守らせるためである」

③安息日は、ユダヤ教の初期の段階で、擬人法化された。

*安息日は、「ヤハウエの女王」であり、「イスラエルの花嫁」である。

*金曜の夕、会堂の扉を開けて、女王である安息日を迎える歌を歌った。

④イエス時代のパリサイ人の教え

「すべてのユダヤ人が一回でも安息日を完全に守ったなら、メシアが来られる」

3. アウトライン (ヨハ5:1~18)

- (1) 絶望的な状況 (1~5 節)
- (2) 神の恵みの侵入 (6~9 節 a)
- (3) 恵みへの反発 (9b~15 節)
- (4) 反発への回答 (16~18 節)

4. メッセージのゴール

- (1) パリサイ人たちの問題点とは何か。
- (2) ご利益信仰の限界とは何か。
- (3) ヨハ5章の病人とヨハ9章の盲人の違いは何か。

このメッセージは、イエスの業と主張について考えようとするものである。

I. 絶望的な状況 (1~5 節)

1. 時

「その後、ユダヤ人の祭りがあって、イエスはエルサレムに上られた」(1 節)

(1) 「ユダヤ人の祭り」とは何か。

①「ユダヤでの祭り」と訳すべきである。

②祭りの名前が出ていないので、学者の間で論争がある。

(2) 過越の祭りであろう。

①イエスの公生涯を3年半と考える根拠は、4回の過越の祭りの存在である。

②ヨハ2:13、5:1、6:4、12:1

③ヨハネの福音書では、安息日と過越の祭りが、密接な関係を持つ。

*ヨハ19:31

(3) 安息日の優位性

①レビ記23章は、【主】の7つの例祭について記している。

②その冒頭に、安息日の規定が置かれている。

③ヨハネは、安息日の優位性について深く理解していた。

2. 場所

「さて、エルサレムには、羊の門の近くに、ヘブル語でベテスダと呼ばれる池があって、五つの回廊がついていた」(2節)

(1) 「羊の門」

- ①エルサレムの北東にある門
- ②この門から、いけにえの羊を運び入れたので、この名が付いた。

(2) 「ベテスダと呼ばれる池」

- ①現在の聖アンナ教会の下にある池
- ②縦約90メートル、横約66メートル(約50メートル)

(3) 「五つの回廊」

- ①4辺+中央の仕切り

3. 状況

「その中に大ぜいの病人、盲人、足のなえた者、やせ衰えた者たちが伏せっていた。そこに、三十八年もの間、病気にかかっている人がいた」(3、5節)

(1) 4節は、後代に付加されたものである。

- ①水の動きと癒しが関連付けられている。
- ②古代には、癒しの宮(神殿)というものが多く存在していた。
- ③代表的なものは、アスクレピウス(アポロの息子)の神殿である。
- ④癒しの宮の特徴は、隣接する泉や湧き水で身を清めることが要求されること。
- ⑤この箇所では、イエスがそれ以上の方であることが証明される。

(2) 多くの肉体的癒しを待つ人々がそこに伏せっていた。

- ①彼らは、水が動くのを待っていたのである。
- ②恐らく、間欠泉であろう。

(3) 「三十八年もの間、病気にかかっている人」

- ①イスラエルの荒野の放浪期間にほぼ等しい。
- ②当時の平均寿命以上の年数である。
- ③古代の癒し物語は、病気の年数を記すことで、癒しの素晴らしさを表現した。

II. 神の恵みの侵入 (6~9 節 a)

1. イエスからの一方的な語りかけ

「イエスは彼が伏せっているのを見、それがもう長い間のことなのを知って、彼に言われた。『よくなりたいか』 (6 節)

(1) イエスは、最も悲惨な人を選んだのであろう。

- ① イエスの目がその人に注がれた。
- ② イエスは、群衆の中にいる個人に目を留められる。

*ニコデモ

*サマリヤの女

(2) イエスの知識

- ① 超自然的なものなのか。
- ② 観察によるものなのか。
- ③ あるいは、噂を聞いたのか。

(3) なぜ「よくなりたいか」と質問したのか。

- ① 病人は、回復への意欲を失うことがある。
- ② さらに、病気の状態に逃げ込むこともある。
- ③ この質問には、病人に希望の灯をともし力がある。

2. 病人の回答

「病人は答えた。『主よ。私には、水がかき回されたとき、池の中に私を入れてくれる人がいません。行きかけると、もうほかの人が先に降りて行くのです』 (7 節)

(1) この回答は、彼の心の状態を映し出すものである。

- ① 彼は、「イエス」、「ノー」で答えていない。
- ② 癒されない理由を述べている。
- ③ 他者への批判の言葉である。
- ④ 責任転嫁が彼の習い性になっていた。

3. イエスの命令

「イエスは彼に言われた。『起きて、床を取り上げて歩きなさい』 (8 節)

(1) イエスは、自分で行動を起こすように命じた。

- ① イエスの癒しは、肉体の癒しだけでなく、内面の癒しも含む。

(2) ここでは、癒しを受ける側の信仰は問われていない。

①公生涯の後半に入ると、信仰が癒しの条件になってくる。

4. イエスのことばの力

「すると、その人はすぐに直って、床を取り上げて歩き出した」(9節 a)

(1) 神のことばに従うなら、神はそのことばを通して働かれる。

(2) この癒しは、イエスのメシア性を証明する奇跡である。

①イザ 35 : 1~7 参照

III. 恵みへの反発 (9b~15節)

1. ユダヤ人たちの反発

「ところが、その日は安息日であった。そこでユダヤ人たちは、そのいやされた人に言った。『きょうは安息日だ。床を取り上げてはいけない』」(9b~10節)

(1) ユダヤ人たちとは、宗教的指導者たちのこと。

①反発の理由は、その人が安息日の規定に違反したから。

②彼らは、イエスにではなく、その人に反発している。

(2) 彼は、安息日に床を取り上げて歩いた。

①安息日に、物のある領域から別の領域に運ぶことは禁じられていた。

* 公の場から私的場へ、私的場から公の場へ

* この場合は、私的場から公の場に運ばれた。

②特に、床を運ぶことは厳しく禁じられた。

(3) この人は、死の危険に直面した。

2. 言い逃れの言葉

「しかし、その人は彼らに答えた。『私を直して下さった方が、「床を取り上げて歩け」と言われたのです』」(11節)

(1) 自分を癒してくれた方に、責任をなすりつけている。

3. 無知の露見

「彼らは尋ねた。『「取り上げて歩け」と言った人はだれだ』。しかし、いやされた人は、それがだれであるか知らなかった。人が大ぜいそこにいる間に、イエスは立ち去られたか

らである」(12～13節)

- (1) この人は、イエスに関する知識が全くない。
 - ①この癒しは、一方的な恵みによるものである。
 - ②肉体の癒しの段階で留まっており、魂の癒しは起こっていない。

4. 罪人を捜すイエス

「その後、イエスは宮の中で彼を見つけて言われた。『見なさい。あなたはよくなった。もう罪を犯してはなりません。そうでないともっと悪い事があなたの身に起こるから』。その人は行って、ユダヤ人たちに、自分を直してくれた方はイエスだと告げた」(14～15節)

- (1) イエスがこの人を見つけてくださった。
 - ①魂の癒しを与えようとするイエス

- (2) 「見なさい。あなたはよくなった。もう罪を犯してはなりません。そうでないともっと悪い事があなたの身に起こるから」
 - ①「罪を犯し続けてはなりません」という意味である。
 - ②一般的な意味で、罪は病と死の原因である。
 - ③しかし、特定の病を罪の結果と言ってはならない。
 - ④この人は、癒されてからも罪を犯し続けている。
 - ⑤イエスからの警告が与えられた。

*38年の病気以上の悪いこととは、永遠の苦しみのことである。

- (3) この人は、ユダヤ人たちに密告した。
 - ①感謝の思いから出たことではなく、これは、責任逃れたための行為である。

IV. 反発への回答 (16～18節)

1. 反発の矛先はイエスに向かう。

「このためユダヤ人たちは、イエスを迫害した。イエスが安息日にこのようなことをしておられたからである」(16節)

- (1) 2つの理由
 - ①安息日に癒しを行った。
 - ②癒された人に、床を運ばせた。

2. イエスの回答

「イエスは彼らに答えられた。『わたしの父は今に至るまで働いておられます。ですからわたしも働いているのです』」(17節)

- (1) 確かに神は、天地創造の後も、宇宙の運行を支えておられる。
 - ①すべての生き物は、神によってその命が保たれている。
- (2) イエスは、神を「わたしの父」と呼ばれた。
 - ①ユダヤ人たちは、神を「私たちの父」を呼んだ。
 - ②「わたしの父」という呼びかけは、父と対等であることを意味している。
 - ③これは、イエスの神性宣言である。
 - ④ユダヤ的理解では、長子は父と同格と見なされる。
 - ④ユダヤ人の指導者たちは、それを理解した。

3. 殺意の始まり

「このためユダヤ人たちは、ますますイエスを殺そうとするようになった。イエスが安息日を破っておられただけでなく、ご自身を神と等しくして、神を自分の父と呼んでおられたからである」(18節)

- (1) 福音書で、イエスに対する殺意が初めて登場する。
- (2) 理由は2つある。
 - ①安息日違反
 - *イエスがメシアであるなら、安息日を守るはずである。
 - ②神への冒瀆である。

結論

1. パリサイ人たちの問題点とは何か。
 - (1) 彼らは、癒された人ではなく、その人が床を運んでいるのを見た。
 - (2) 彼らの関心は、人間の命ではなく、口伝律法に向かっていた。
 - (例話) 集会中の事故にどう対応するか。
 - (例話) 贖罪の日でも、救急車だけは走る。
2. ご利益信仰の限界とは何か。
 - (1) この人は、癒された。
 - (2) しかしイエスは、この人にこう警告された。

「見なさい。あなたはよくなった。もう罪を犯してはなりません。そうでないともっと悪い事があなたの身に起こるから」

- ①38年の病以上に悪いこととは何か。
- ②安息日を守ることは、終末的期待に関係していた。
- ③「もっと悪い事」とは、終末的裁きのことであろう。
- ④この人のイエスに対する態度は、罪人のそれである。
- ⑤ご利益と呼べるようなことがあったとしても、それは人を真理から遠ざける。

3. ヨハ5章の病人とヨハ9章の盲人の違いは何か。

(1) 古代の文学は、対比によって論点を鮮明にするという特徴がある。

- ①ヨハ9章では、生まれつきの盲人が癒されている。
- ②ヨハ5章とヨハ9章には、対比がある。

(2) 対比

①共通点

- *ともに、癒しを受けた。
- *ともに、恵みによる癒しであった。
- *ともに、イエスによって見い出された。

②ヨハ5章の病人は、癒しを受けただけで、信仰に至っていない。

- *責任転嫁
- *イエスから警告を受けた。
- *その後で、イエスについて密告している。

③ヨハ9章の盲人は、信仰に至っている。

- *事実を証言し、そのための犠牲を払っている。
- *その後、イエスに見い出された。

*ヨハ9:38

「彼は言った。『主よ。私は信じます』。そして彼はイエスを拝した」